

The Thirty-sixth International Ocean and Polar Engineering Conference-ISOPE2026(第36回国際海洋・極地工学会議)参加報告

寒地港湾空港技術研究センター特別調査役 平澤 充成

令和7年度にとりまとめた自主研究の成果について、本年5月31日から6月5日まで、米国フロリダ州オーランドで開催された国際会議「The Thirty-sixth International Ocean and Polar Engineering Conference-ISOPE2026」に参加し発表してきましたので報告します。

●ISOPE とは

本会議はISOPE(The International Society of Offshore and Polar Engineers)の主催による海洋・極地(主に北極)を対象とした世界最大級の会議であり、毎年、世界各地で開催され、本年で第36回目の開催となりました。実は私は英国スコットランド・エディンバラで開催された第1回会議にも参加しており、本会議は縁の深い会議でありました。

初日のオープニングセレモニーでは40を超える国々からの研究者、技術者が今回の会議に参加していることが紹介されました。



素晴らしい環境の ISOPE2026 会場
(Hilton Orlando Lake Buena Vista)



オープニングセレモニーの様子

●セッションの様子

オープニングセレモニーの終了後、流体力学、再生可能エネルギー、海洋技術、パイプライン、掘削等の8部門に分かれて本格的な議論が開始されました。

私は3日目、6月2日16:20開始の流体力学部門「台風」セッションで「On the Correlations

between Climatic Oscillation Indices and Waves Generated by Typhoons and Extratropical Cyclones in the Pacific Coastal Waters of Northern Japan(日本北部太平洋沿岸における気候振動と台風及び低気圧に起因する波浪の関係)」と題して発表しました。その内容は2カ年の自主研究で分かった苫小牧港沖の海域における年最大級の波パワーと北太平洋の東西方向の



セッション会場入口にて
(優しい女性参加者が撮ってくれました)



「台風」セッションでの発表の様子
(この写真も参加者が撮ってくれました)

海水面温度の振動や北極周辺と中緯度地域の気圧振動との相関関係に関することです。台風がテーマだったこともあり、本セッションの参加者は中国をはじめ東アジアの方々が多かったようですが、国際会議ならではの緊張感の中、発表を終えたときは安堵と達成感が押し寄せてきました。

●海外研究者、技術者との交流について

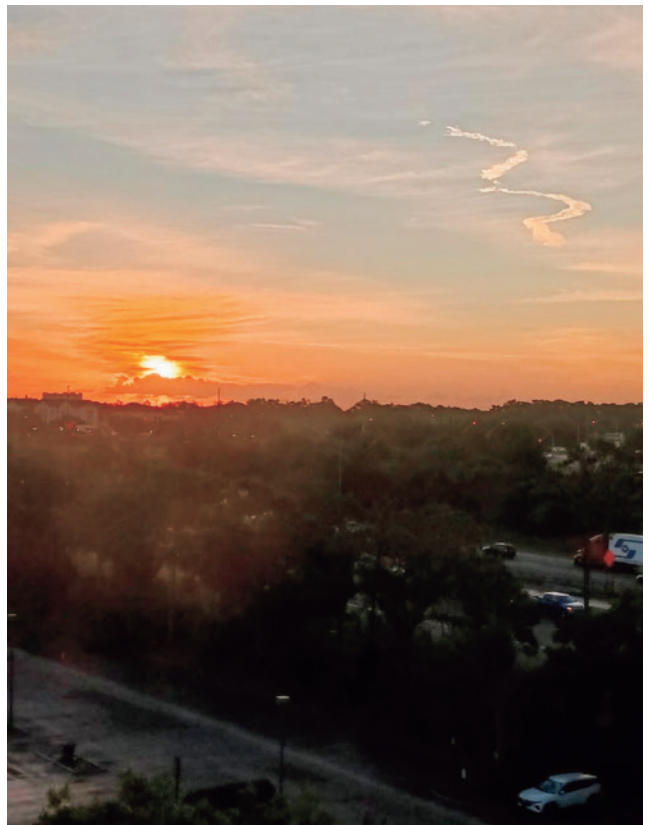
各セッションでの発表の場だけでなく、ウェルカム・レセプションやセッション間の休憩時間に振る舞われる軽食やコーヒー等を飲食しながら意見交換、情報交換が出来るのも国際会議の醍醐味のひとつです。ウェルカム・レセプションでは英国・ニューカッスル大学の先生と会話する機会を得ました。先生はタイ出身でマングローブの根の消波効果を研究されているとのことでした。ただ話題は研究にとどまらず、今回の会場周辺の現地調査(分かりやすくいえば、ディズニーワールド)に及びました。私が「ディズニーワールドには全く興味がないので行かない」と言うと、「折角来たのに、何を馬鹿なこと言っているんだ。絶対に何処かは行った方がいい!!」とほだされ、歩いて10分のディズニースプリングスというところに行ってきました。結局、食事も比較的安く食べられ、お土産も買えることが分かり、会議の合間に2回行ってきました。



発表後、ひとりディズニースプリングスで打ち上げ

●若い研究者、技術者の皆様へ

このように書くと私が英会話に長けているように聞こえるかもしれませんが、決してそうではありません。今回の出張でも現地オーランドに行く途中で飛行機を乗り換えたロサンゼルス空港や帰りの際のオーランド空港で少なからずトラブルがあり、汗をかきかき必死に乗り切れたくらいの語学力です。でも研究テーマに限らず、同じ関心事について会話するとき、(出身国にも依りますが)相手も理解しようとしてくれますし、分かりやすい言葉で伝えようと努力してくれるので、結構、楽しく会話できます。北海道の若い研究者、技術者の皆様も、チャンスがあるときはその機会を逃さず、是非、積極的に国際会議の参加を考えて欲しいと思います。行ってみたら楽しいですよ!!



ホテルからの朝日
(右上の飛行機雲は恐らく“スペース X”のロケット打ち上げの名残)

